

京都教区時報

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2 頁～9 頁 中学生広島平和巡礼 高校生大船渡ボランティア合宿 感想文

京都教区広報委員会
編集長 村上透磨
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075-211-3468
FAX 075-211-4345
kouhou@kyoto.catholic.jp

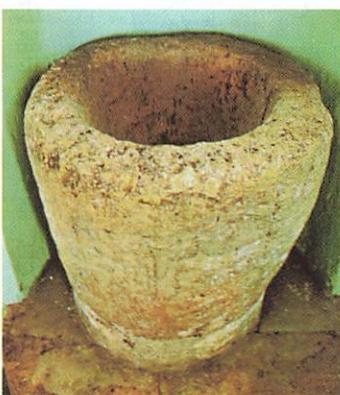
点訳版「京都教区時報」(無料)
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。
TEL 075-421-2201

10頁 魅力ある教会って?? (大和八木教会)

2013年司教年頭書簡「信仰パート3」

9. イエスに信頼する喜び

現代は、人間を信仰の喜びから遠ざける
さまざまの誘惑に満ちている。現在の浪費
主義、快樂主義、物質主義は、豊かさにこ
そ幸福があると思わせ、ネット社会はます
ますそれをあおりたてる。その結果、人々
はその生活に、知らず知らず空しさを感じ
始める。「物を所有することは眞の喜びと
はならないのに」と年頭書簡は、悲しみを
こらえて語ります。そこでパウロの「悲し
んでいるようで、常に喜び、物乞いのよう
で、多くの人を富ませ、無一物のようで、
すべてのものを所有しています」(二コリ
6・10)、つまり「イエス・キリストのみ
が眞の喜びを与えて下さることを信頼し行
動することが出来る」という言葉が出てく
るのだと思います。さて、イエスだけが眞
の喜びを与える方だと知っているマリア
は、人々の生活の中で眞の喜びが欠けてい
ることを知ることがお出來になりました。
だからあのカナの婚礼においてマリアだけ
が、ぶどう酒が欠けたことに気付くことが
お出來になつたのだと。それは眞の信仰の
喜びを知る人だけが、眞の喜びの「欠け」
を知ることが出来るからだと、言うのです。
「キリストにならう」1章の3に、こん
な言葉があります。「空いことの空しさ、
全ては空しい」(コヘレト1・2)。ただ神
を愛し、神に奉仕する以外は」と。でも
ちょっと注意しておかねばならないのは、
快樂を求めている時、人はこれこそ楽しい
喜びだと思い、そこに幸せがあると信じ込
んで、情熱をこめて追い求めている。空し



カナに保存されている
石の水かめ

さが来るのはその後なのです。もつと悲しいことは、多くの場合その「欠け」にさえ気付かないことはないでしょうか。また逆に、その「欠け」を陰ながら支えて下さる方の「おかげ」で、今の自分の幸せがある事に気付けば、謙遜な感謝と喜びの心が生まれてくるはずなのに。思うのですが、真の喜びや感謝の心は、無の発想から生まれるのではないか。もともと無にすぎず、何も持たなかつた私達は、こんな恵みに満たされている。有難い有難いと思うことから始まるのです。

そこで、カナの婚礼における奇跡に戻つて考えてみると、水がぶどう酒に変わり、婚礼を祝福し喜びをもたらしたと言うこと以前に「空の水かめ」に注目します。私達が神様から信仰と生命の喜びで満たしていくだけには、自分を「空にして御前に置くこと」から始める。ぶどう酒(喜びと命)に変えられるのは、神様の御業なのだと。(神様はお好きな様になさる)

中学生広島平和巡礼 感想文



「広島平和巡礼で思ったこと」

中学1年生 桃山教会 土持こなみ

今回、最も心に残ったのは、「ローマ法王平和アピール碑」に書いてあった言葉です。その言葉とは、「戦争は人間の仕業」というものです。私は、この言葉にても説得力があるので、どんな言い方よりもいい言い方だと思いました。この言葉は全く本當だと思えました。人がやりだして、人が死んで人が辛い思いをするだけなのです。

私は、小学6年生の時に、修学旅行で平和記念公園に来ました。その時は気づかなかつた、そしてひどく衝撃を受けたことがあります。韓国人の数と、原爆によって亡くなっている人の数の多さを、広島には韓国人も韓国約10万人もいます。当時、广島には韓国人によって被爆し、亡くなっています。广島には韓国人が2万人にもなるそうです。そして、その多くは原爆によって亡くなってしまった人の数はなんと2万人にもなるそうです。广島で亡くなつた人の総数は20万人なので、1割にもおよぶのです。そして、その多くは「朝鮮人だから」といつて治療としてもうえなかつたのです。私は、本当に日本は朝鮮にひどいことをしてしまって、悪かったなあとと思いました。別に私がやつた訳でもないのに、とても反省させられてしまう事実です。



「広島平和巡礼を通して」

中学1年生 丹波教会 十倉 希望

「原子爆弾でね、広島ではたくさん的人が亡くなつたんだよ。その中には君達のような子どもも大勢いた。みんなもつと遊びたかった。もっと生きたかった。でも：できなかつたんだ。だから、その分、君達は精一杯生きてあげてね。」

私が感心したのは、その後の復興のスピードです。「75年間草木も生えない」と言っていた土地が、今では路電が走り、大きなビルが建ち、人々が楽しそうに行き交うようになりました。日本の歴史に、いつの時代だって一番偉いのは、戦後復興する人だな、と思いました。大

切な人を亡くし、財産をなくし、思い出をなくしても、明日への希望を捨てずにはがんばるのは、相当の精神力がいることです。誰かのせいでの状況にさせられたのに、めげずにみんなで協力して復興するなんて、私にはできません。私だったらその誰かをうらみ、憎しみ、八つ当たりをするでしょう。改めて、復興の大変さを感じます。

この巡礼で、私は少しでも平和について深まつたと思います。そして、一日一時間一分一秒でも早く平和が訪れることを願います。また、冬の合宿にも行きたいと思いま

館で出会つたおじいさんが語ってくれた。これを聞いて私は、改めて、戦争のむごさと命の大切さを感じた。そして、平和な今にいる私は、精一杯生きていかなければならぬと思った。しかし、どうすれば、自分の命を精一杯生かせることができるのだろう？。その答えは、分かち合いで少し見つけることができた。

まず、一日目に聞いた被爆者証言についての分かれ合い。「私の思つていた普通は本当は普通じゃないことに気づいた」という意見を聞き、あたり前の生活に感謝することが、自分が命を精一杯に生きるために第一歩なの



ではないかと思つた。

次に、二日目に行なった黙とうや平和記念資料館見学についての分かち合い。「平和とは命が尊重されていること」、「大切な命を自分で絶つようなことは絶対にしたくない」というような意見が出、自分や命を大切にすることも必要なのだと思つた。

この他にも、平和巡礼ではさまざまのこと学んだ。そして「命」や「平和」について考えた。だが、命を精一杯生かせるための答えは、まだ少ししか見つけられていない。だから、これから、少しずつ見つけていきたいと思う。そして、神様からいたいた命を、被爆された大勢の人々の分まで、精一杯生きていたいと思う。

「本当にそれだけなのだろうか」

中学2年生 唐崎教会 永井繪美里

今年の広島平和巡礼は去年より内容が理解でき、考え方も去年と少しかわっていたことに気が付き驚きました。その他に、去年気が付けなかつたことを、気が付けたりしました。その中で、広島に落ちた原子爆弾の被害者は日本人ばかりだと思っていたが、実は被害者の中に韓国人もたくさんいたということに、気が付きました。このようなことに気が付け、うれしく思いました。けれども、日本がしかけた戦争に、植民地だったとしても本当は関係のない韓国人が被害にあつたことが、心に「ぐさつ」ときました。

私はその時代に生まれていませんでしたが、日本人として本当に申し訳ないことをしたような気持ちになりました。でもまだ私のしらない事実がたくさんあると思うので、来年も広島巡礼に参加して、もう一度調べにこようと思いました。

その他に、8月5日にあった平和行進は、去年より楽しかったです。行進していくとき歌を歌っていくのですが、私は去年、はずかしくてなかなか歌えませんでした。でも今年は、なぜか去年とちがつてリーダーや他の人達と楽しく歌えることができ、いい思い出になったと思います。

私は平和記念資料館に行くのは三回目だったのですが、もう一度平和について考えさせられました。その前に「平和」っていうものはなんだろうと思いました。ほとんどの人がそうなのかなはわからないのですが、平和は戦争がないことだとよく聞きます。でも本当にそれだけなのだろうかと思いました。

今年の広島平和巡礼で、またいろんなことを知ったり、気が付いたりできてよかったです。でも、もつと知りたいこと



「一生懸命生きる」と「死」

中学生 唐崎教会 堀内伸

ぼくが今回の巡礼で心に残ったことは、平和資料館で見た佐々木植子さんの話です。貞子さんは、2歳で被暴る。「黒い雨

祐二さんは、5歳で被爆し、一長い年をかぶつてしまい、その影響で白血病にかかるて12歳で亡くなられたそうです。祐子さんは、入院しているとき、折り鶴を千羽折れば元気になれる信じて、鶴を折り続けました。

被爆しても、治ると信じて必死で生きられるのはすごいと思うと同時に、禎子さんはもつと生きたかったんだろうなと思います。鶴を折っていた禎子さん的一日と、特に考えることも無く過ごしている

ぼくの一日では、濃度が全然違うと思

戦争中の当時の人たちと違い、生きるか死ぬかに追われているわけでもないけれど、当時をいります。

生きていた人達や、禎子さんの様にぼく



私たちも毎日を一生懸命に生きないと、生きたくても原爆で亡くなってしまった人々達をふくむ、戦争で亡くなってしまった人々に失礼だと思います。だから、ぼくも毎日を楽しみながら、一生懸命一日一日を大切に過ごしていきたいと思うし、ぼくはそういうことが今回の巡礼のテーマの「大切なのち」広島からのメッセージにつながっていると思います。

今回の巡礼も楽しかったので次も参加したいと思います。

「平和とは何か」

中学2年生 東舞鶴教会 高橋 壮太

僕は初めてこの広島平和巡礼に来ました。

内容はハードでつかれましたが新しい友達ができたり、楽しくレクリエーションができたりしてよかったです。また韓国の中洲教区の中学生も共に巡礼し、少しだけでも交流もできました。

僕は、広島に来るのも初めてで、原爆ドームに来るのも初めてでした。テレビや本で見たものより、原爆ドームは原爆や核兵器の恐ろしさを語りかけてくるようでした。原爆平和祈念館では、被爆後の広島市内の様子を360°タブルで描いた絵は、また壁画(?)がありました。その絵は、まるで自分が実際にその場にいるかのようになります、原爆の被害の惨状をオブラーントに包むことなくつたえてきたので、自分でもすごくショックを受けました。無差別

人々の命をうばうその恐ろしい兵器と、それを作つてしまふ人間が恐ろしいとも感じました。

僕はなぜ戦争になつたかを考えました。小さなさかいだったのでしょうか、一方的な侵略によるものだったのでしょうか。どれにせよ、僕が考える平和とは、国どうしにしても、人間関係にしても、「互いにガマンし、あやまること」だと思うのです。一方がガマンせず、互いにガマンしない、互いを尊ちようするこことで平和の道が開かれるのではないかと今回も思いました。

「巡礼について」

中学3年生 東舞鶴教会 遊里道凪人

今回の巡礼ではたくさんの話を聞きました。主に原発や核爆弾など、命に関わる大きな話でした。そんな話を聞いていて、思った事がいくつありました。

一つは、広島や長崎の人々が、原爆などでどのように命を奪われたのかを聞い



平和祈願ミサ
プラカードの奉納

て、原発がとても恐ろしく感じられました。またそれと同時に、これからは核爆弾で人が殺される事はあってはならないと強く思いました。

二つ目は、被爆証言を聞いていて、「広島に原爆を投下するのは分かるけど、長崎への原爆投下は許せない。」という所で、広島は落とされる可能性のある府県の中でも、アメリカ人の捕虜収容所がなかつたとされ、この原爆投下がなければ戦争がもっと長引いていたかも知れません。しかし、一度原爆を落とし、脅威は伝えられたはずなのに、今度は長崎に落とすのは少しおかしいと思いました。

三つ目は、偶然出会ったデモの人達のスローガンの一つに、「広島に原爆を投下したアメリカは謝罪しろ!」というのがありました。これは日本もアメリカに同じような事をしていたので、仕方が無いと思いました。また、原爆を落とした時の大統領も、「落とすべきではなかった」と少しは反省している様子なので、日本がアメリカにした事を少しゆるして、いるという事だと思いました。それなのに、日本側がゆるさなければ争いが始まるとも知れません。どちらもゆるし合わなければ争いは止まらないので、アメリカも日本もゆるし合い、過去よりもこれから平和を築くべきだと思います。

「僕にとつて大切な3日間」

中学3年生 綾部教会 山中 圭

僕が、この広島平和巡礼に来たのは、

2回目です。なので、初めは、「2回目だから去年と同じだろう」と思って来ました。でも、その考えは、8月6日の出来事によって変わりました。一つ目は、相生橋での黙祷です。八時十五分に、みんながシーンとして、すごいと思いました。去年はそんなにすごいと思わなかつたからともすくいと思いました。二つ目は、平和公園での碑巡りです。特に、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の中にある八時十五分を表す建造物です。なぜかというと、その建造物には、水が流れています。なぜなら、被爆した人は「水をください」といって亡くなつたからです。僕は、この建造物を見て、とても感動しました。なぜなら、追悼しようといふ方々の気持ちがすごく伝わってきたからです。三つ目は、平和記念資料館です。僕は、その中の八時十五分で止まつた時計がとても印象的でした。なぜなら、原爆が落とされたという事が分かるし、落とされたとされたとされただとされるのが形として分かります。僕は、世界の全員が、原爆の恐ろしさを見て、「原爆はこの世にいる」ということができれば、原爆がなくなり、平和へ大きな一步を踏み出



高校1年生 河原町教会 中島 基喜

「東北で学んだこと」

高校生大船渡ボランティア合宿

せると思ひます。なかなか難しい事だと思います。人は、自分の利益を優先させてしまつたりする事があります。でも、人のために何かができる人もたくさんいます。そんな人が増えればいいなと思います。僕も、人のために何かができる人間になりたいと思います。

僕はこの平和巡礼で、とても心の面で成長する事ができたと思ひます。いろんな見方ができるようになつたし、前より物事をしつかり考えられるようになつたと思います。ここで付けた力は、今後どのような形か分からぬけれど、初心を忘れず、十分に力を發揮していきたいで

行く前日は岩手にいく好奇心、ワクワクがあり少し軽い気持ちだった。新幹線のなかでもふわふわした気持ちだった。しかしそんな気持ちはバスに乗つて被災地を走る時、啞然へとかわった。今まで写真で見てきた光景が目に飛び込んできた。あれから二年たつたとは思えないような光景、元々そこに何があつたのかわからないぐらいに何もなくなってしまつた商店街の跡。そして、七万本あつた松の木は一本を残して跡形もなく消え去つていた。僕は移動のバスで被災地の現状を思い知つた。僕はここで本当にいかができるのだろうか。僕の憧れだった東北はどこにいったのだろうか。そんなことを考えながら宿舎に到着した。

日がたつにつれて僕の心は少しずつ変化していく。初めてのボランティア活動は漁業支援という名の除草だった。こんなことをして意味があるのか僕にはよくわからなかった。こんな暑い中、鎌を



大船渡ベース

振り回して草を切ることに意味があるのか、と。でもそんな気持ちは漁業支援でお世話になつた方に「ありがとう」と言わされることで消え去つた。その「ありがとう」で僕の心は突き刺さるようなものを感じた。「意味がないわけない!!」こんな些細なことでもここの人々の役に立てる!!」そう感じた。あくる日も除草がだつた。雑草を抜き終わつたとき満足感が僕の心に芽生えた。「ああ草がなくなつた。良かった」と。しかし、その日の分かち合いのときだつた。シスターはこう言った。「ただの満足感でボランティアをしている人がいる」と。僕ははつとしない。自己満足だけではやっていても意味がない。相手に幸せになつてもらわなければやる意味なんかない。僕は日々学び成長していく。

今回のボランティア活動で一番心に残つたのは視察だと思う。陸前高田のまちに降り立つたとき、雑草はぼうぼうに生え手付かずの土地がたくさんあつた。昔、商店街としてとても賑わっていたと聞き、言葉が出なかつた。すべて海が奪つた。人の命も建物も。僕はすこし海を夢みて今を生きる」です。この言葉を初めて目にしたときは、私は少くとも心に残つています。その言葉は、「過去を想い、未来を想い、未来を夢みて今を生きる」です。

間には欲が出るのだろう。欲の恐ろしさを知つた。毎日が学びだつた。帰りのバスで僕は横目で海を見た。海は平和だつた。忘れていた気持ちだと気づきました。

三日目、四日目と過ぎゆく中で、私はたくさんの人から「ありがとう」という言葉のプレゼントをいただきました。「ありがとうございました」というたつた五文字の中に大きな思いがあり、すごく心温まるような気持ちになれました。同時に人の心の痛みをいやすのは人であり、だからこそお互い支え合つて生きてゆくことが、できるんだと改めて確認しました。同じ空の下で生きている私たちだからこそ、助け合つて生きていくことが大切だと思いました。

私は東北ボランティアに参加することができて本当に良かつたです。今回のボランティア活動において、朝早くから送り出してくれた家族、大切な七日間を共に過ごした仲間、神父様、スタッフの方々、この東北という場所で出会つた全ての方々に感謝し、明日からもまた一つ一つの出会いを大切にし、自分の過去を想い、今という時を悔いのないよう、一日一日を大切に生きていきたいと思いました。

「東北ボランティアで気づいたこと」

高校1年生 大和高田教会 橋本 真優

今回、私は初めて東北ボランティアに参加しました。一日目に京都駅に集合しました時は、みんなと仲良くなれるか不安でした。が、みんなが話しかけてくれて、少しずつではありますが徐々に話せるようになりました。七日間という短い間でも仲良くなることができたと思ひます。現地のスタッフのみなさんも、本当に優しくて色々なことを教えて下さいました。

二日目はある方の家の跡地の草刈りをしました。私はその場所で見かけた看板の言葉が、今も心に残っています。その看板の言葉は、「過去を夢みて今を生きる」です。この言葉を初めて目にしたときは、私は少し心を動かさず、心を動かさないまま过去了。今の私は少くとも心に残つています。

「被災地を訪れて」

高校2年生 宮津教会 矢野有希子

初日に大船渡に行つたときの正直な感想は「思つていたよりだいぶ綺麗」だっ



その時は陸前高田の道の駅や奇跡の一本松、駅前の商店街など、大船渡よりも被害が大きい地域を訪れた。どこも津波の大きな被害を感じさせるもので、とてもショックを受けた。陸前高田は大船渡と

た。海の近くには津波の被害を受けたままの施設が数軒残っていたものの、本通りには新しくスーパーや本屋などが立ち並び、仮設ではあるが商店街もあった。またバスの周りには普通の家が建つていて、街中で瓦礫の山を見ることがもなかつた。

しかし、そんな思いも次の日から始まつたボランティア活動によつてあつけなく覆された。その日は海に近い畠の草刈りに行つた。そこはもともと家があつたが、津波で流されてしまい、その土地を畠にしているそうだ。これを聞いてとても驚いたが、それ以上に衝撃だったのは、依頼主のおばあさんが、それを淡淡と話していたことだつた。大船渡では家が流されることは、そんな風に話せるほど珍しいことではないというのを実感し、改めて被害の大きさを感じた。六日目に行つた視察も印象的だつた。



地に対してできたことはほんの少しだったと思う。しかし、その小さな積み重ねで少しずつでも復興していくのではないだろうか。また、このタイミングで被災地に入り、実際に見て感じることで得ることも多かった。今回感じたことをずっと忘れず、人に伝えていくことでも被災地の力になると思う。宮津に帰つても今回の訪問で感じたことを忘れず、地元でも被災地に対してできることをやつていきたい。

話をする。瓦礫がとても多く残されていた。話を聞くと大船渡はセメント会社が瓦礫の処理をしているそうだ。市町村によつて復興の早さに違いが出ていることを悲しく思った。

今回の訪問中、県内のあちこちで「がんばっぺし岩手！」と書かれている看板を見かけた。以前、阪神淡路大震災についての本を読んだことがあるが、それには被災者が「街じゅうで『がんばろう神戸！』という看板を見るが、もうすでに頑張っているのに、これ以上何を頑張つたらいいかわからない」と悩み、精神的に辛い状況に追い込まれたと書いてあつた。東北の人たちも同じ状況に陥つてしまわないだろうか。もちろん被災地の努力なくして復興はあり得ない。しかし、被災地だけでなく日本全国で力を合わせて復興へ向かつていけたらと思う。

今回のボランティアで私たちが、被災

「大船渡ベースでの七日間」

高校2年生 伊勢教会 濱口 桃子

本番ではすぐ
く上手に焼け
て、釜石に住
む方々に提供
できたり、被
災地の視察に
行くことができ
たり、本当に
貴重な体験
ができる、精神的
的にも肉体的
にもしんどく
くなることもあります

今回私がこの合宿に参加したのは、普段の高校生会の流れというのもあってけれど、それよりも、東日本大震災で被災された方たちのために、何か少しでも役に立ちたいと思ったからです。今まで東北に行くことがなかつたけれど、四日間ボランティアをすることで色々な出会いや思いを得ることができて、本当に良い体験をすることができました。ボランティアというのは自分が達成感を得るものではなくて、被災地の人々のために、どれだけ自分のベストを尽くして役に立つことができるのかが、重要なのがだと知りました。この四日間、炎天下の中で協力して草抜きをしたり洗車をしたり、釜石で行われた、「ぼらまつり」に



草刈の準備

多かつたけれど、素晴らしい日々だと思います。東北についてから四日目までの夜、震災当日の様子をDVには大船渡に見慣れました。そのDVで見ました。そのDVには大船渡にきて見慣れました。町並みが、あつと言ったところに津波に飲み込まれてしまっている、映像がうつされていて、正直信じられませんでした。今の大船渡は、震災前と比べたらお店や家も少なくなってしまったかもしれませんけれど、約二年半のうちにこれだけ復興しているという渡の町並みに震災が来たとは思えませんでした。

六日目には視察に連れていってもらいました。奇跡の一本松や高田松原の道の駅、気仙中学校などを見て六日目にして、ようやくはっきりとここで震災があったという事実を受け止めることができました。沢山のガレキを集められたところには、瓦やガラスをはじめ車の部品や日用品、電化製品の一部などが山積みになつていて、四日目にみたあのDVDの映像を思い出すと、すごく怖かっただし残酷でした。被災地に住む人々は本当に優しい方ばかりで、とくに大船渡教会のみなさんや、

「東北で学んだもの」

高校3年生 丹波教会 水村 要

私は今回、八月一日から八月七日の間、岩手県の大船渡市にあるカリタスジャパン大船渡ベースにボランティアとして参加させて頂きました。私はかなり前からボランティアに参加したいと思つていたので、このお話を聞いた時直ぐに、「行きます！」と返事をしました。そして、京大船渡市に着いて家が流されて更地になつた場所をみて少し戸惑いました。京都市でテレビでは見ていましたが、映像を



道具洗い

大船渡ベースのスタッフさんは、私達のことを家族のように暖かく迎えてくれてすごく嬉しかつたです。今回この合宿に参加して、ある方に「暗い心をもつたひとたちをあなたたちの光で照らしてあげて欲しい」と言わされました。私は全力でボランティアに取り組み、満面のスマイルで人と接し、この言葉を実現させることができたかは分からぬけれど、私の行動で一人でも多くの方が、暗い心を明るい心に変えることができいたら、良いなと思います。いつかまた機会があるならば、必ずこの大船渡の地に来てボランティア活動をしたいと思っていました。最後になりましたが、今回わたくしたちが合宿するためには何から何まで準備してくださいました。神父様、暖かく迎えてくれた大船渡ベースのスタッフのみなさん、大船渡教会のみなさんに心から感謝謝ります。ありがとうございました！

見るのと現地に来て見るとでは、印象が違いました。テレビでは、最初は津波の映像を流していましたが、福島県の原子力発電所の話になり、また、流れているのはドキュメント仕立ての物ばかりで、東北のことをいつの間にか忘れかけっていました。しかし、現地について自分が腹が立ちました。大船渡市は、太平洋セメントという会社が瓦礫を燃やしたので、大船渡は他の市とくらべてわりと早く復興が進んでいる方だと言われましたが、私はそれでもまだこれからだな、と思いました。

ボランティア活動として、畑周りなどの草刈り、「ぼらまつり」のたこ焼き屋の出店、被災地視察、仮設住宅訪問などを进行了。その中で、陸前高田への被災地視察が心に残っています。陸前高田が近付くにつれ、大きな衝撃を受けました。見渡す限りいくつもいくつも瓦礫の山があり、廃墟とも呼べないぐらいの家や果てしなく続く更地。



釜石で行われた「ぼらまつり」

付けられました。大船渡市とは違い陸前高田は平地の大被害はとても大きかったです。何とも言えません。テレビで見る元だと思いました。この七日間で自分の出来ることは出来たと思っていますが、また必ずボランティアに行きたいです。とても自分の為になつた七日間でした。皆感じ方が違うと思います。東北の方ありがとうございました。

「被災地での体験を通して聖母マリアに倣う
神学生 大塚乾隆

（小山教会での聖母被昇天についての分かち合いより）

教会は聖母の被昇天について、神のことに忠実に従い、神の呼びかけとわざに完全に身を委ねた聖母マリアが、真っ先にキリストの復活と榮光にあづかることを祝い、さらにこれを「旅する」という意味の希望、信じる者の慰め」と言います。しかし私は、「神のことばに忠実に従い、神の呼びかけとわざを特別なことだと考えていましたので、



たこ焼きの出店

この特別なことを果たせなければ、キリストの復活と栄光にあづかれないのではないかと不安になりました。そこである神父様に尋ねると、「これは特別なことはない。日々の生活を送りながら、それぞれの立場に応じて求められていることを、具体的に生きるということで、全ての人に開かれている。きっとマリアも母としての生活を送っていたことでしょう」と言われました。これを聞いて、全ての人に開かれている。きっとマリアも母としての生活を送っていたことでしょう」と言いました。これを聞いて、私は一昨年の五月に被災地を訪れ、そこで考えたことを思い出しました。

地震から二ヶ月が経ち、「何かできることはないか」という思いに駆り立てられて被災地に行きました。しかし、一日・二日の滞在でしかも個人で行ったところで何もできないと自分の無力さを痛感し、さらにその時は神学生でもあったので長期間そこで活動することもできませんでした。では今の自分に何ができるかを考えると、「神学院に戻ってからの生活で自分のできることにしつかり取り組もう。自分の置かれた状況で務めを果たそう。」ということでした。その後二年が経ち、この夏に高校生と共に大船渡に行きました。



奇跡の一本松

ティア活動では多くの時間が草むしりに割かれました。これは被災地に行かなくてできることがありますし、しかし今の生活の中で草むしりをするかと言われれば、積極的にやらないものでしょ。私は大船渡での体験を通して「与えられたことに対しても、どういう気持ちで取り組むか」ということを考えました。「私たちが草むしりをしなければ、それを現地の方々がすることになる。その人達のお手伝いになつてているのだから、草むしりも喜んですることではないだろうか。専門技術を持たない私たちの一歩は、自分たちのできる範囲で喜んでお手伝いをさせて頂く」という気持ちで取り組むべきではないか」と思いました。

与えられる仕事の中には気乗りのしないものもあり、「はいはい」と返事をしてしまうことがあります。しかし、天使からお告げを受けたマリアが思いめぐらして信仰において「はい」とこたえたように、「はい」とこたえて日々の生活を歩んでいける恵みが私にも与えられますように。被災地での体験を通してこのよ



シリーズ
小教区

魅力ある教会って??

(大和八木教会)

—不完全ながらも

それに応えていく—

国のはほぼ大和三山に抱かれた大和八木教会は、五十有余年の命脈を戴いています。「信仰年」を迎えてこの小さな共同体においても、確かに第2バチカン公会議の精神が、具現化しつつある道筋が感じられます。

八木教会は、立地交通の便が良く、活動拠点として最適の場所にあります。古くから国際交流ミサが行われ、最近はスペイン・ポルトガル語圏、フィリピン・英語圏との交流や触れ合いが多くなっています。毎月1回ずつスペイン語・英語ミサがあり、小教区評議会にも代表が出席して、お互いの考え方や意見を出し合っております。毎月1回ずつスパニッシュ会、A(アルコール依存社会復帰の会)の二つの例会が毎週1回行われています。また、夏休みには、毎年地域の小学校のジオ体操の行事が、教会の駐車場で行われています。

第2バチカン公会議の恵みのひとつとして、エキュメニカルの朝祷会が月1回行われています。「キリストはひと

す。地元の音楽協会、合唱協会からの演奏家の出演も毎回あり、気軽に教会に足を運んで音楽を楽しめる場所となっています。

本教会は、この大和の地にご自分の教会を建てたいと望まれた神の摂理により、マリスト会司祭のご苦労により創立されました。以来、歴代の司祭方のご指導とウルスラ会のシスター方の献身にながら、教会・社会のニーズに応じて共に祈っています。



チャペルコンサート

宣教司牧になり、今年からカルメル宣教修道女会のシスターお二人が八木に住んで下さり、奈良の司牧のために働いて下さっています。私たちはこの大きな恵みをいつも思い起こし、不完全ながらもそれに応えていく責任を、恵みの内に果たしていくことができるよう願っています。

カルメル宣教修道会



©Sr.リーナ・ファラス

©Sr.ポーリン・フェルナンデス

榛原があり、四十数年前から教会と地元の人々との交流が行われています。「大和の祭り」として、「右近こどもまつり」は奈良県民手帳にも記載されています。近年は右近列福の実現を願って、列福祈願ミサ、ゆかりの地への巡礼、公開講座への参加などにより氣運が盛り上がりつつあります。現代に通じる右近の靈性についてながら、一日も早い列福を、幼少の学びながら、右近を培った大和の地から、熱く祈っています。

奈良南部ブロック主催で、八木教会の聖堂を開放して「チャペルコンサート」を開催しています。南部ブロック聖歌隊では、主に「祈る教会の声」と言われるグレゴリオ聖歌や典礼聖歌を歌っています。

10月のお知らせ

教 区

典礼委員会／Tel.075(211)3025 ④⑤⑥
典礼研修会「典礼憲章」を学ぶ

日 時：1日⑥ 14:00～15:30
 テーマ：第3章 その他の秘跡と準秘跡②
 講 師：村上 透磨師
 日 時：29日⑥ 14:00～15:30
 テーマ：第5章 典礼暦年
 講 師：北村 善朗師
 対 象：小教区典礼奉仕者
 (各小教区4名程度、事前申込み不要)
 場 所：カトリック会館6階

聖書委員会／Tel.075(211)3484 ⑤⑥
聖書講座「信仰の喜びと福音宣教」

日 時：16日⑥ 19:00 17日⑥ 10:30
 テーマ：聖霊における喜びと福音宣教
 講 師：北村 善朗師
 日 時：23日⑥ 19:00 24日⑥ 10:30
 テーマ：イエスのわざと福音宣教
 講 師：鈴木 信一師(聖パウロ会)
 会 場：河原町教会 ヴィリオンホール
よく分かる聖書の学び
 日 時：30日⑥ 10:30
 講 師：北村 善朗師／参加費：300円
 会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

地区協議会

奈良カトリック協議会

聖書講座—信仰の核としての出エジプト記—
 日時会場：11日⑤ 19:00 大和八木教会
 12日⑤ 10:00 奈良教会
 テーマ：金の子牛と契約の更新
 講 師：鈴木 信一師(聖パウロ会)
 日時会場：25日⑤ 19:00 大和郡山教会
 26日⑤ 10:00 奈良教会
 テーマ：まとめ
 講 師：松田 浩一師(カルメル会)

修 道 会

男子カルメル修道会(宇治修道院)

Tel.0774(32)7016 Fax.(32)7457

社会人のための靈的同伴(松田 浩一師)

日 時：11日⑤ 20:00～12日⑤ 15:00

参加費：5,500円(宿泊・食事込)

水曜黙想(今泉 健師)

日 時：16日⑥ 10:00～16:00

テーマ：アラビアの聖テレジアとイエス
 参加費：2,700円(昼食代他)

一般のためのカルメルの靈性入門(松田 浩一師)

日 時：26日⑤ 17:00～27日⑥ 16:00

テーマ：テレサ的カルメルの靈性

参加費：6,500円(宿泊・食事込)

神との出会いを求める人々の母 聖テレジア

テレジアの新しい人間への道(松田 浩一師)

日 時：5日⑤ 14:30～16:00

場 所：カトリック会館6階(この講座のみ)

参加費：無料

聖ドミニコ女子修道会(京都修道院)

Tel.075(231)2017 Fax.(222)2573

ロザリオと共に祈る会

日 時：18日⑤ 10:30～12:00

諸 団 体

望洋庵／Tel.075(366)8337

秋季キリスト教入門講座

日 時：3日④／17日④ 19:00～20:00

講 師：溝部 優司教

場 所：望洋庵(西陣教会内)

対 象：青年／会 費：300円

京都カトリック混声合唱団

練 習：13日④ 14:00／26日④ 18:15 ミサ奉仕後
 カトリック会館6階

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：10日④／24日④／31日④ 10:00
 カトリック会館6階

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星.CATV)スカイAスポーツプラス

毎週土曜日 朝 7:45

松浦 信行師(大阪教区)による

シリーズ「イエスのポートレート」

ラジオ(KBS京都) ④～⑤ 朝 5:15

10月のテーマ「私とロザリオ」

京都南部ウオーカソン

日 時：11月 4日④ 10:00～14:30

(例年は3日ですが日曜日ですので4日に開催します)

受 付：8:45～9:30 河原町教会

コ ース：河原町教会から鴨川沿い往復

寄付先：東日本大震災被災地、

ネバールパンディール村の3つの教育活動支援

聴覚障がい者の会

11月 5日⑥ 13:00 手話表現学習会

(聖書と典礼)カトリック会館6階

信仰を祝う－賛美の祈りとともに－

詩編の祈りの夕べ

日時会場：11月 9日④ 14:00 四日市教会

：11月 10日④ 14:00 河原町教会

(詳しくは教会のポスターをご覧ください)

京都教区サポートセンター

東日本大震災「大船渡支援」献金報告

8月分 685,339円／累計 32,076,908円

「大船渡支援」献金 郵便振替口座

口座番号「01000-2-0024724」

加入者名「カトリック京都司教区本部事務局」

摘要欄に「大船渡支援」とご記入ください。

ボランティア募集中

詳細は京都教区ホームページをクリック

京都教区

検索

大塚司教の

10月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 3日㊁ 10:00 中央協 常任司教委員会
- 4日㊂ 9:30 特別臨時司教総会(中央協)
- 6日㊃ 9:00 山科教会 献堂60周年記念
感謝ミサ
- 7日㊄-11日㊅ 教区司祭 年の黙想
(当別トラピスト修道院)
- 13日㊆ 11:00 高野教会 創立75周年記念
感謝ミサ

センター始まって以来
ちゃいますか?
宮津教会 白浜 みゆき

今年もやります、YES2013。今年のテーマは「Hon ne Cafe 2」。まさかの、去年と同じテーマです。NWM があったから、さぼったのではないですよ。リクエストにお応えしたのです。「普段は聞けない本音が聞きたい」そんな理由から始まった「Hon ne Cafe」。簡単に説明をすると、1対1形式の分かち合いです。昨年の YES で実行し、全国の青年が集まる NWM でも実行しました。NWM の準備をする中で「当日、スタッフは運営のため分かち合いができない。自分たちもやりたい」という要望に応えたものです。

前回の YES では「自分より5つも6つも年上の人への考え方方がわかって刺激になった」「若い人たちの気持ちに触れられて新鮮だった」

14日㊇ 14:00 札幌教区

ベルナルド勝谷太治司教叙階式
(札幌市・藤女子大学講堂)

17日㊉ 14:00 司教顧問会

19日㊊ 10:00 小教区役員交流会(河原町)

20日㊋ 14:00 セニヨール・デ・ロス・
ミラグロス祭ミサ(草津教会)

21日㊌-30日㊍ 大阪教会管区「信仰年」巡礼

「同じ悩みを抱えている人がいた」といった感想をもらいました。NWM に参加した人も、参加できなかった人も、YES での「Hon ne Cafe」でじっくり話をしてみませんか？ で、ところで、YESって？ 青年センターって？ と思った方は、HPでチェックして下さい。

日 程：11月9日㊆～10日㊇

場 所：唐崎メリノールハウス

申し込み締め切り：10月11日㊅

申し込み先、詳細：青年センター

